

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

マラヤン・バンキング・ベルハッド（証券コード：-）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付	A

格付事由

- (1) 連結総資産 7,360 億リンギ（16/12 期末、約 19 兆円）を有するマレーシア最大の銀行。子会社を通じてイスラム銀行業務や証券、保険などの非銀行業務も手掛けており、海外でも ASEAN 地域を中心に充実したネットワークを有する。格付は、堅固な国内事業基盤、収益源の分散と高い収益力、良好な流動性ポジション、高い資本水準を反映している。一方、銀行業が所在国の金融経済情勢や規制環境の影響を受けやすいことから、格付はマレーシアのソブリン格付（外貨建長期発行体格付：A/安定的）の制約を受けている。業務対象地域におけるコモディティ価格の低迷などを背景に、企業向けを中心に与信の劣化が続いている。しかし、堅固な事業基盤に支えられた収益力や高い資本水準を踏まえれば、与信費用の増加に対するバッファは十分と考えられる。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しは安定的とした。
- (2) 国内では銀行、証券、保険の各分野で堅固な事業基盤を築いている。預貸シェアは 2 割程度。大企業との取引や個人向けの融資などに強みがあり、イスラム金融を優先的に提供するアプローチをとっている。海外では ASEAN 地域をターゲットとして戦略的展開を図っており、主力のシンガポールでは外資系大手適格フルバンクの一つとして個人・法人取引の双方で基盤を確立している。インドネシアでは比較的規模の大きい地場銀行を子会社に持つ。海外事業は貸出残高および業務粗利益の 4 割前後を占め、安定した収益源となっている。証券・投資銀行業務では 11 年にシンガポールの Kim Eng を買収しており、スクークの引受といったイスラム金融の分野を含め国内外で高いプレゼンスを有している。
- (3) 不良債権比率は上昇を続けており、17 年 3 月末は 2.4%となった。14/12 期までの 3 期平均で総与信比 20bp 程度に抑えられていた与信費用も 16/12 期には 60bp 程度まで増加している。劣化しているのは主に国内外の石油・ガス、鉱業や海運向けの与信である。ただ、与信ポートフォリオは国、顧客セグメント、産業などの点で分散が図られており、これらのセクターについても個々の与信残高は多くない。保守的な与信スタンスのもとで、信用リスクが高いセグメントの与信圧縮も進んできた。リスクは総じて管理可能とみているが、コモディティ・資源関連を含め業況が景気の影響を受けやすいセクターに法人・企業向け与信先を抱えている点に留意が必要であり、与信費用の動向を引き続き注視していく。保有有価証券はボリュウムが大きい上、国債や社債が主体となっており、金利リスクや価格変動リスクは抑制されている。
- (4) 近年は低金利環境や厳しい競争を背景に利ざやが縮小傾向にある。16/12 期は 4bp 縮小し 2.27%となった。しかし、貸出残高の増加がこの影響を吸収し、純金利収入を中心としたトップライン収益の拡大基調は維持されている。引当前営業利益ベースの ROA などのみた基礎的な収益力は、従前より低下しているとはいえ高い水準にある。与信費用などの損失吸収力は依然大きい。16/12 期は与信費用が大きく増加したが、最終利益は前期比ほぼ横ばいを確保した。16/12 期末のグループ連結普通株式等 Tier1 比率は 13.99%と格付対比で良好な水準にある。貸出の伸びに伴いリスクアセットは増加する傾向にあるが、着実な利益蓄積により健全な資本水準を維持するとみている。預貸率はグループベースで 90%台で推移している。主要海外拠点でも預金が潤沢に確保されており、外貨についても流動性のバランスは良好である。

（担当）増田 篤・佐伯 春奈

格付対象

発行体：マラヤン・バンキング・ベルハッド (Malayan Banking Berhad)

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第1回円貨社債(2015)	185億円	2015年4月30日	2018年4月27日	0.397%	A
第2回円貨社債(2015)	128億円	2015年4月30日	2020年4月30日	0.509%	A

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2017年8月10日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：増田 篤
主任格付アナリスト：増田 篤
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<http://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<http://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2014年5月8日)として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) マラヤン・バンキング・ベルハッド (Malayan Banking Berhad)
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・格付関係者が提供した監査済財務諸表
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<http://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル